

医療法人名南会 第45回定時総会特集号

第45回 定時社員総会のご案内

法人定款第22条、第25条及び第27条の規定による「医療法人名南会 第45回定時社員総会」を下記のように開催いたしますのでご通知申し上げます。

2010年5月 医療法人名南会 理事長 三宅 隆史

総会日程及び会場

●日時：2010年

5月23日(日)

午後1時30分～5時30分

●会場：**金山・労働会館東館
2階ホール**

(地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分)

第45回定時社員総会 記念講演のご案内

5月23日(日)

午後1時30分～3時15分

記念講演

渡辺 治氏

(元一橋大学 大学院教授)

●テーマ(予定)

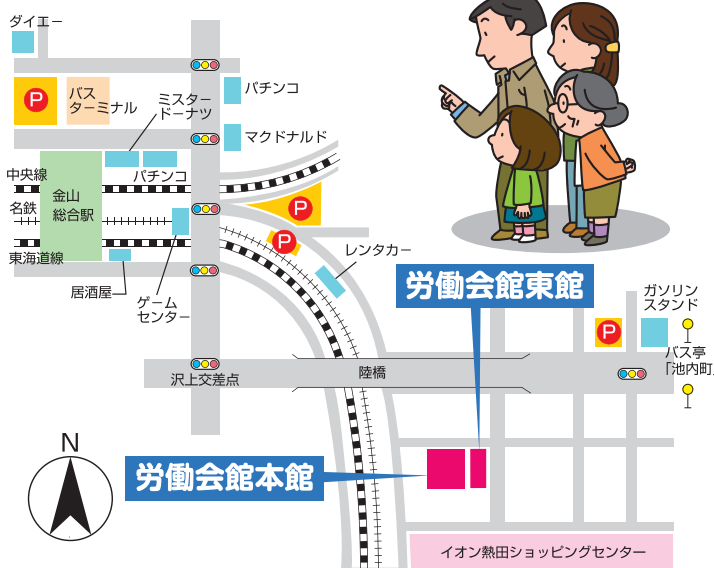
「憲法9条と25条～その力と可能性」

主な著書

憲法、「改正」—軍事大国化・構造改革から改憲へ(旬報社)／構造改革政治の時代—小泉政権論(花伝社)／安倍政権論—新自由主義から新保守主義へ(旬報社)／新自由主義か新福祉国家か(旬報社、二宮厚美氏らと共著)等。



午後1時 開場・受付開始
午後1時30分～3時15分 **記念講演**
(詳細は左下をご参照ください)
午後3時30分～5時30分 **社員総会議事**



第418号(部内資料)

発行

医療法人 名南会
名古屋市南区豊田
五丁目15番18号

発行責任者

西本 義弘

☎052-692-2388

年間購読料600円

一部 50円

①各院所の
2009年度の
活動のふりかえり

2009年度諸活動と2010年度活動方針案

名南 病院

2009年度の 特徴的な活動

●管理型臨床研修指定病院の名南病院で、初めて初期研修医1名(早川モモ医師)を迎えました。



▲名南病院で初期研修中の早川モモ医師

●健診件数を大幅に増加させ、早期発見・早期治療に成果。

乳がん検診は前年を228件上回る1,368件実施し、目標1,000件を達成しました。友の会健診も前年比404件増、大腸がん検診も前年比205件増。



▲目標を達成しました、名南病院乳がん検診担当者会議

●はじめての“名南健康まつり”
230名参加で大成功

11月14日、名南病院を会場に、はじめての健康まつりを開催しました。



▲名南健康まつり「世界糖尿病デーコーナー」で講演する三宅理事長

名南 診療所

2009年度の 特徴的な活動



▲9月25日、200名が参加した完成祝賀会(小松・名南ふれあい病院長による記念講演)



◀利用者も増えてきた、デイサービス庵の最近の様子

在宅療養支援事業の拡充、健康づくり・いきがい活動の地域拠点めざし、名南診療所増築工事完成。通所リハビリテーションの充実、名南会で初めての小規模デイサービスの11月開設(デイサービス庵)が実現。

2頁につづく

名南会ホームページ

URL <http://www.meinan.or.jp/>

各院所の2009年度の活動のふりかえり・1頁からのつづき

名南
ふれあい
病院

たくさん寄せられているエコキャップの前に
エコプロジェクトの職員



自公政権・構造改革による社会保障財政の徹底した削減により、今日まで医療や介護・福祉を受ける権利が著しく奪われてきました。そのような状況のもと、名南ふれあい病院は小松健・新院長のもと、全日本民医連に結集し差額ベットの無い・混合診療を許さない事業所として、共同組織と力を合わせ、「困難に寄り添い長寿を心から喜び合える、安心して住み続けられるまちづくり」をめざし活動してきました。

2009年度の名南ふれあい病院は大きな管理体制の変更の中、前年比100.9%の事業収益を確保しました。これは名南ふれあい病院の医療・介護活動が地域に期待され、必要とされているひとつのあらわれでしょう。

回復期リハビリテーション病棟ではあらたに日曜祝日のリハビリの提供を始め、早期の在宅復帰に貢献しています。また、中京病院・掖済会病院・中部ろうさい病院・大同病院・名古屋市立大学病院と連携を結び、リハビリを必要とする患者さまの受け入れを積極的に行い、在宅復帰・社会復帰のお手伝いをしてきました。

2011年度末に廃止が決まっている介護療養病棟では高いベット稼働率を維持しました。差額医療を行わず、最も困難な人々に寄り添う医療・介護は地域医療を守る立場で必要不可欠です。機能の存続を求め、共同組織とともにさらなる運動が必要です。

また、昨年のゴミ削減プロジェクトにつづき、エコプロジェクトが提案されました。医療・介護・福祉に携わる職員として、人々が健康で安心して暮らせる環境は必要不可欠です。事業所の省エネルギー・省資源・廃棄物のリサイクルを推進し、環境保護活動にとりくみました。水道使用量は前年比86.9%、ガス使用量で89.4%、ゴミ排出量は75.5%と大きく前年を下回り、水光熱費とゴミ処分費の合計で前年比83.3%、年間920万円の削減を成功させました。

名南介護老人
保健施設
かたらいの里



かたらいの里では2009年度は認知症に対するケアをより充実させるために職員の外部研修を積極的に行ってきました。施設長も交代し家田医師によって認知症の方の治療を工夫することにより周辺症状を落ち着かせることができたり、介護職員の認知症ケアのレベルアップ、通所リハビリ（デイケア）ではリハビリスタッフによる認知症のリハビリテーションの開始ができました。

入所されている方の入所生活の質の向上をしていくにあたって、余暇活動も充実できるように考えてきました。職員の勤務を見直し、夕食後から就寝までを充実した時間にするため、夜間の足浴を取り入れることができたので入所者様には大好評でした。

地域に開かれた施設として豊田保育園や豊田小学校と積極的に交流をし、園児や児童を受け入れました(写真)。秋には小学校との合同運動会を企画していましたが、新型インフルエンザの流行により残念ながら実施することはできませんでした。しかし運動会を準備するにあたり小学生への車いすの介助方法の指導を行い地域福祉の発展に貢献することができました。

通所リハビリ(デイケア)ではリハビリ施設としての機能を十分に発揮し、通所される方の身体機能の維持、介護予防をすることで住み慣れた地域で暮らし続けることを支援して来られたと思います。

中川
診療所

はじめての中川診療所健康まつり▶



2009年度は「中川健康友の会と協力・共同の活動を強化しよう」をスローガンに取り組みました。

友の会員が268名増えました。友の会役員と共同で地域の友の会員の自宅訪問行動を毎月行い、資金募集運動にも積極的にとりくみました。新しい班(さわやか体操班、囲碁班、わの会班)が誕生しました。

地域に開かれた診療所をめざし、健康講座を3回開催し、のべ110名の参加がありました。また、健康まつりを開催し、130名の参加で成功しました。介護事業の面で、訪問リハビリを新たに開始し、地域のニーズにこたえました。

名南在宅
総合センター
きずな

きずなスタッフ全員による
朝会のような▶



- ①平成21年度の介護保険制度改定後、利用者様の生活や人権を重視し在宅支援の活動を行いました。
- ②3事業所(訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所)ともにより質の高いサービスが提供できるよう定期的な学習会を行い、外部の研修会にも参加しました。
- ③日常の在宅支援活動のなかで、医療機関、施設、他事業所、地域との連携に努めました。

② 医師・看護師をはじめ「地域とともに歩む専門職」の育成を
すすめました。

地域の期待に応えるためにも、医師・看護師を始め職員の確保と育成が不可欠です。管理型臨床研修指定病院の名南病院で、初めて初期研修医1名(早川モモ医師)を迎えました。また、名南会の医療と看護を担える後継者づくりにも積極的にとりくみ、高校生一日医師・看護師体験、医学生・看護学生研修、奨学生づくりなどを強めました。その結果、2010年度は16名の看護師(新卒6名)採用と大きな成果につながりました。民医連で働く青年職員のお互いの交流と成長をめざす「青年ジャンボリー」の活動も活発です。



▲春休み高校生一日看護師体験に28名参加



▲福岡で開催された民医連全国青年ジャンボリーに8名の青年職員が参加

③ わたしたちは、 「あらゆる活動を共同組織 とともに」すすめます。

事業所と共同組織が一体となって昨年度に引き続き 地域の健康づくり「1万人の大腸がん検診運動」 「1千人の乳がん検診運動」にとりくみ、大きく前進しました。

- 「健診を受けてよかった！」そんな喜びの声が多く聞かれました。増え続ける乳がん・大腸がんの検診大運動のとりくみをすすめました。班会などでの学習会や職員と友の会員共同の地域訪問行動、友の会員自身が地域にひろげる検診運動として前年度より活動を前進させ、いずれも前年度を上回り3,200件の大腸がん、1,368件の乳がん検診を実施し、15件のがんが発見できました。



健診の大切さを
みんなで学習



大腸がん検診について
みんなで学習し、
「みんなで受け、
まわりにひろげよう」
と瑞穂・内浜班

2009年度、「1億円資金運動」に多くの 社員・友の会員の方にご協力をいただき、 9,000万円の資金が集まりました。

- 「名南会協同基金は、差額ベッドのない病院・よりよい病院、施設を支える大切な力」と職員、共同組織の共同での、外来や病棟での訴え・地域訪問行動など、かつてないとりくみがすすめられました。



名南病院外来において、
職員・友の会役員で
患者さんに協同基金の
訴えを行いました。

地域の交流、生きがい活動、友の会の活動拠点 として、名南ふれあい病院東側に “ふれあいヴィレヂ” オープンしました。

- 道徳・名南わいわい広場に続き、今年度「ふれあいヴィレヂ」「名南診療所多目的室」が開設され、友の会班会やちぎり絵・絵手紙などの教室、地域諸団体の学習会など、地域の交流センターとして利用が広がりました。ふれあいヴィレヂでは、ミニデイサービスタビリティや子どもお絵かき教室など今までにない活動がはじまりました。



ふれあいヴィレヂで
週1回はじまった
ミニデイサービス
「みんなの家」



11月26日
ふれあいヴィレヂ開所式

平和、くらしを守るとりくみ ～みんなで学んでみんなで行動～

- 私たちは何よりも「いのち」を大切に、崩壊の危機にある地域医療を守ります。医療、介護、福祉を守る運動では、「後期高齢者医療制度、即時廃止署名」「名古屋市国保と高齢者医療制度の改善を求める署名」などにとりくみました。また、「南区国保料などの減免をすすめる会」に参加し、7月には南区役所に対して保険料減免の集団申請と交渉を行いました。



7月に、国保・介護
保険料減免を求めて
南区役所と交渉

名南病院外来で、名南健康友の会として
定期継続的に署名にとりくんでいます。

- 平和憲法を守るとりくみは、いのちを守る活動をしている私たちの最も重要なとりくみです。平和、憲法9条を守る運動では、6月平和行進と8月原水禁世界大会、3月ビニデナーなどに多くの青年職員を派遣しました。また、5月「ニューヨーク・NPT再検討会議」に向けて5,000筆目標の署名と2名の代表を派遣する活動にとりくみました。

2009年原水禁世界大会（長崎）
に青年職員4名で参加しました



NPT再検討会議代表
派遣のついで（学習会）



6月平和行進に参加した
名南会職員・友の会員

みんなで楽しく健康づくり、生きがいづくり

- 今年度新しい班が7つ誕生しました。3人以上集まれば、地域で「友の会班会」ができます。班会では、血圧や体脂肪測定などの健康チェック、また病気の予防や治療について医師や看護師、管理栄養士、その他のスタッフもお伺いし、アドバイスをさせていただきます。今年度、中川地域で3つ、瑞穂区も含めた名南診療所地域で3つ、常滑市で1つの新しい班が誕生し、毎月の活動がはじまりました。



中川地域に新しく「わの会班」が誕生



診療圏外で初めての班が誕生、
常滑「なのはな班」

- まちかど健康チェックは、地域での健康づくり・相談活動の場、共同組織の存在を地域にもアピール、地域との結びつきを強めています。久しぶりに、名南病院近くの、ザ・チャレンジハウス前で健康チェックに20名の職員でとりくみました。



楽しい友の会全体企画、地域での行事などでは、 職員、共同組織相互の親睦が深められました。 また、地域との結びつきが強まり、地域の仲間づくりの 輪がひろがり、まちづくりにも生かされました。



健康友の会毎年恒例、
「大須演芸場初笑い」は、
160名で満席

道徳平和盆踊り大会では、
名南健康友の会定番となった
「みたらし団子」で参加



名南健康友の会秋の行楽は、
「奈良・曾爾高原、お亀の湯」
(92名参加)

医療法人名南会2010年度方針（案）

全日本民医連第39回定期総会で、基本的理念を「私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です」とした新しい民医連綱領が確立されました。医療法人名南会は、この新しい民医連綱領にいっそう団結し、地域になくてはならない民医連の事業所として、人権にもとづく安全・安心・信頼の医療と介護を実践し、安心して住み続けられるまちづくりに貢献します。

昨年の総選挙では、国民の審判により自公政権が退場し、新しい国づくりの第一歩を踏み出しました。障害者自立支援法の応益負担廃止、社会保障2200億円削減政策からの転換、不十分ながら診療報酬の引き上げなど、国民の力で政治や医療、社会保障制度を変えることのできる時代であることを示しています。一方で、後期高齢者医療制度廃止先送りや療養病床削減問題など、阻もうとする勢力とのせめぎ合いの時代でもあります。

世界的な経済危機の影響で愛知の経済は急激に落ち込み、県内で派遣切りなどで職を失う非正規労働者は08年10月から10年3月までに42,455人にのぼり全国一となっています。有効求人倍率も全国一から転落し、09年12月は0.53倍と全国平均並みになりました。県内企業の09年末の冬のボーナスの平均妥結額は前年比19.2%減となり、1964年以来最大の下げ幅です。

県民生活の悪化の中、生活保護世帯は急増し、国保料滞納世帯も加入者の2割以上を超えています。愛知民医連で開催した「一職場一事例運動交流集会」でも、無保険、あるいは保険があっても自己負担がたいへんで受診できずに手遅れで死亡されるケース（特に、男性で40～50歳代）が多く寄せられました。また、子どもの貧困問題での受診抑制も深刻です。

名古屋市では、昨年の市長選挙で「自公政治ノー」の流れの中、河村たかし市長が誕生しました。しかし、基本的立場は改憲論と構造改革路線です。「市民税10%減税」は「金持ちはずえ口」の公約に反する大企業・金持ち減税であり、「地域委員会」は福祉の民間化・民営化の受け皿づくりと市議会の形骸化をもくろんでいます。「議会改革」の名で議員定数半減・小選挙区導入などの民主主義破壊、市長独裁の市政運営がねらわれています。また、「減税」の代わりに保育料値上げや市立病院の市営廃止・民営化などの福祉・医療の切り捨てが出されており、重大な情勢となっています。

医療法人名南会は、地域の困難に寄り添い、健康友の会の強化に努め、専門職の確保・育成で事業を前進させてきました。医療経営をめぐる困難な状況は続いています。全日本民医連に結集し全国の経験に学びつつ、協同の取り組みを強めていきます。

（2010年度の重点課題方針）

① 名南会の特徴を活かし、各事業所の機能・役割を高める

名南病院は、急性期・亜急性期病床としての機能を発揮し、糖尿病をはじめ生活習慣病の療養支援、消化器・乳ガンなどの内科と外科の連携、高齢者の急性期対応などの機能をさらに向上させていきます。名南ふれあい病院・老健かたらいの里は、リハビリ機能を高め在宅支援を強めていきます。診療所や在宅総合センターきずなでは、地域での健康管理や在宅療養支援の取り組みをすすめます。

② 「地域と共に歩む人間性豊かな専門職」の育成をすすめる

地域の期待に応えるためにも、中長期的な展望からも、医師・看護師をはじめ職員の確保と育成が不可欠であり、引き続き法人の最重点のテーマです。医師2年目初期研修、新人看護職員研修を法人・院所をあげて成功させ、様々な資格取得を含めた育ちあう研修制度の整備をはかっていきます。全日本民医連綱領の学習運動を全職場で行い、働き続けられる魅力ある職場づくりをすすめます。

③ 法人内連携を強め、地域医療を総合的に発展させていく

医療法人名南会の特徴と優位性を発揮し、地域の医療・介護要求に応えるため、法人内及び地域の事業所との連携・ネットワークの質を高めていきます。自事業所の特徴を統計的に打ち出し、地域医療の中での役割・機能を発揮していきます。保健予防活動の総合的な発展、ガン医療も含めた慢性疾患医療、地域ぐるみの救急医療、子どもの貧困に立ち向かう小児科医療、リハビリテーション医療と在宅医療の新たな展開をはかります。

④ 統一会計基準の準拠・徹底をすすめ、経営改善をはかる

全日本民医連統一会計基準に準拠し、法人・事業所の経営実態を正確に把握し、全職員で共有し、具体的で現実的な経営改善をすすめます。事業所管理会議での集団的な検討をもとに、職場ごとの課題・目標を設定し、毎月の予算達成をめざします。資金管理が重要な課題となっています。健康友の会に依拠した資金結集や事業キャッシュフローの増大が欠かせません。本部事務局と事業所が連携した事業未収金管理を強めていきます。

⑤ 支部化など組織整備をすすめ、健康友の会の強化をはかる

医療法人名南会は、健康友の会との協同の前進なくして、医療・介護活動も経営活動も前進させることはできません。地域で、連帯し助け合う組織として、平和・憲法を守りまちづくりをすすめる医療・福祉住民運動として、事業所を守り発展させる共同組織として、健康友の会を2万人を展望し拡大・強化します。健康友の会の支部化など組織整備をすすめ、1億円を目標にした協同基金など地域資金募集運動に取り組みます。

